

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400671		
法人名	有限会社ジョイケアサービス		
事業所名	グループホームジョイ		
所在地	岐阜県羽島市堀津町横手1-36		
自己評価作成日	令和6年9月23日	評価結果市町村受理日	令和6年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170400671-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地
訪問調査日	令和6年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『生き活き』『認め合い支えあい』を理念に掲げ、日常生活を通して生き生き活動できるように支援しています。調理・掃除・洗濯等の家事は、利用者同士やスタッフと共同で行い、お互い支えあって生活しています。また、スタッフのほとんどが地元に住んでいるため地域とのつながりを持ちやすくなっています。体調面では事業所内の看護スタッフと業務委託先の訪問看護師や協力医・薬剤師・歯科と連携、対応できるよう体制を整えています。重度化した場合には、事業所でできることを家族に伝え、協力医の指示の下で看取りをした経験が何度もあります。入居後も家族や友人との繋がりを大切にし感染予防に努めながら面会や外出を行っています。誕生日会・茶話会・演奏会といった行事だけでなく、日常生活の様子をメッセージアプリを利用し家族に伝えることで安心できる環境を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本人が持つ能力が発揮できる支援を基本として取り組んでいる。家事活動を積極的に参加する人、趣味を活かして行事にお茶をたてる人など支え合いながら生き生きとした暮らしの支援をしている。食事時間もその人のペースに合わせ「食べていない」と言われた時は、否定せず代わりの物を出す、「さみしい」と言われれば共感するようにして利用者の思いを大切に寄り添った介護に努めている。家族には、ラインを活用して些細なことも連絡し、日常の様子を写真や動画で送り、安心感や信頼関係を築いている。職員には、パートから常勤職員になる目標の提案、資格取得の推奨と応援、外国人職員に平仮名表示や個別の指導など職員を育て働きやすい環境を作っている。利用者と職員の関係だけでなく、利用者同士・職員同士も互いに認め合い支え合う温かい家庭的な事業所である。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『生き活き』『認め合い支えあい』を理念とし玄関先にも大きく掲げている。スタッフ・利用者・ご家族を含め理念が共有できるように努めている。外国人職員にも丁寧に説明している。	理念を玄関やリビングに掲示して、職員・利用者・家族とも共有できるようにしている。利用者と職員、利用者同士、職員同士が、みんなで「認め合い支えあう」生活を送り、笑顔で「生き生き」と楽しく過ごせるよう理念の実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入っており回覧板やごみ当番の役員を引き受けている。町民運動会に参加し地域の人々と交流をしている。	利用者は、ボランティアの楽器演奏を聞いたり、パチンコの説明を受けチャレンジしたり、町民運動会の競技に参加するなど地域の人と楽しく交流している。管理者が町内の役員を務め、近隣の方から野菜やスイカ・柿などを頂き日常的に交流している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を行い運営状況の報告を行っている。サービス向上に活かせる意見を求めている。防災についての指摘を受け次回の消防訓練時は消防職員の参加を検討している。	会議には、地域の方の参加が多数あり、警察署や消防署にも案内と議事録を毎回届けている。事業所の状況や活動、ヒヤリハットなどを報告している。認知症や介護相談員についての質問に丁寧に説明している。避難訓練に消防署の立会いを提案され、検討している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の職員に参加していただいたり協力的な関係を作れている。市の研修にも参加している。	市の担当者や地域包括センターと、日頃は電話で連絡を取り合っている。生活保護や医療費、成年後見制度について直接出向いて相談するなど話しやすい関係を築いている。市主催の研修会に参加して同業者との交流の良い機会としている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施設は夜間早朝のみ。身体拘束の研修は定期的に事業所内で行っている。法人内の研修も3ヶ月に1度行っている。	身体拘束適正化委員会の内容は、会議で報告している。全員が事業所内研修を受講し、外国人職員には個別に説明している。不適切な言葉づかいなど見かけた時はその場で対応し、会議や研修で話し合い、身体拘束をしないケアを理解して取り組んでいる。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・スタッフ共に虐待防止についての知識を深める機会を日ごろから作っている。何が虐待につながるのかを考え支援し、研修も行っている。	法人の虐待防止委員会に参加して会議で報告している。具体的な虐待行為や虐待に繋がらないためにどうしたら良いのかなど研修や会議で学ぶ機会を作っている。疑わしいことがあれば会議にあげたり、個別に説明したりして虐待防止に努めている。	

グループホームジョイ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の入居者が成年後見人制度を利用している。市からのパンフレットを利用しながら説明を行っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に事業所にて説明を行い、理解・納得を得ている。重要事項説明書・契約書を家族・代理人と共に確認しながら契約を実施している。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフは利用者や家族と話しやすい・相談しやすい関係を築けるように努めている。面会時やメッセージアプリを利用し気軽に意見や要望を伝えられる機会を設けている。また介護相談員が訪問し要望を聞き取り事業所側に伝えている。	面会時やメッセージアプリを使って日常の様子を写真や動画で送り、意見や要望を聞いている。家族から感想や意見の返信がある。全家族とラインで連絡や情報、意見を交換し、話しやすい関係を築いている。居室が寂しいと言われた家族に相談して自宅よりいろいろ持ってきてもらったことがある。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者共にスタッフと同じシフトに入っており自らも体感している。職員の不満・要望や意見を聞きやすい環境である。	グループラインで管理者や職員同士で常に情報交換をし、意見や要望を聞いている。代表者と管理者も現場に入り、日々の業務中も言いやすい雰囲気を作り聞いている。シフトについての要望にも随時対応している。利用者の状態から車椅子使用の提案があり購入した。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	スタッフの日々の仕事に対する姿勢を把握し前向きな気持ちで働けるように努めている。職員自身の健康状態、育児や介護、家庭の事情に合った柔軟な勤務体制を整えている。	職員の年齢や体調、家庭環境などを考慮して勤務調整をしている。急な休みにも気持ち良く取ってもらうようにし、3週間連続休暇を取った人もいる。ラインなどを利用して人に話せる、聞いてもらえる環境を作ったり、パートから常勤職員になる目標を提案したりして、向上心を持って働けるように努めている。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格を持たずに入ったスタッフには初任者研修を行っている。事業所内研修だけでなく、個々に必要なスキルを身に着けるために外部研修に参加している。今年度は介護福祉士試験受験予定者が2名いる。	研修計画に基づいた内部研修は資料を全員に配布し、個別にも説明して全員が内容を理解するよう努めている。資格取得やスキルアップを図る外部研修の案内を掲示し、誰もが受講できるようにしている。資格取得の研修や受験は有休など使うが、費用の補助をして応援している。	

グループホームジョイ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修時に同業者との交流や情報共有を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にあるように『認め合い、支えあう』存在であることを実践できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回インテークだけでなく入居後も本人に寄り添い、アセスメント・モニタリング・評価を本人を含めたチームで繰り返し行うことで希望や意向を反映した生活ができるよう支援している。	言葉の内容、雰囲気や表情などから思いを把握している。多くの選択肢を示して自己決定できるようにしている。食事時間もその人のペースに合わせ、「さみしい」と言われた時は「さみしいね」と言葉を返して共感するなど利用者の思いに寄り添った支援をしている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を本人と家族・担当者・必要時には医療従事者など多職種なチームで行うことにより現状に即した課題やケアを導き出しプランに表現している。	家族には予めラインで要望を聞き、担当職員が毎月行うモニタリングや個別記録を基に半年毎に介護計画の見直しをしている。面会時に担当者会議を開き介護計画の確認を行っている。必要に応じて訪問看護師にも参加してもらい意見を聞いている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌・介護記録・夜勤日誌を通して利用者1日の状況を把握し、日々の変化に敏感に気づき早急に対応している。重要な引継ぎは口頭・記録・グループラインで情報共有し支援している。	個別の記録には、実践したケアの内容、利用者の様子や発した言葉、職員の気づきなどを記録している。個別記録、介護日誌、夜勤日誌で情報の共有に努め、重要な連絡事項は、口頭やグループラインも活用している。個別記録を介護計画の見直しに活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門医に受診の際は主治医と連携し情報提供書の手続きを依頼している。現在は訪問鍼灸マッサージを利用している入居者が2名いる。	専門医への急な受診時に家族の都合がつかない時は職員が同行している。選挙の投票を希望する利用者に介護タクシーを手配したり、買い物の依頼を受け代行したりしている。	

グループホームジョイ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	羽島市高齢福祉課・地域の役員・町内会と馴染みの関係が築けており必要に応じて協力体制ができている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に内科・歯科ともに主治医の選択をして頂き、本人・家族の意向や希望に沿った医療を提供している。状況に応じ通院から訪問診療に切り替えたり希望があれば他科受診を行うなど適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者・家族の希望でかかりつけ医を選択している。協力医以外や他科の受診時は、情報提供を行い、受診後は報告を受けている。毎週、事業所が契約する訪問看護師の健康管理やアドバイスを受けている。急変時は、訪問看護師に連絡して医師の指示のもと対応している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院直後に情報提供を実施している。入院中は定期的に担当看護師に入院状況の聞き取りを行い、必要時は家族・病院関係者で退院カンファレンスを行うことで安心して退院できる環境を整えている。	入院時は、介護サマリーと協力医の情報提供書を渡し、先方の看護師から電話やファックスで状態などの情報を受けている。退院時は、カンファレンスに参加したり、事業所で担当者会議（必要時は看護師も参加）を行い、退院後の生活が安心できるよう支援している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化や終末期についての事業所の方針や対応について説明し、本人と家族の意向を確認している。多職種で連携し、家族の揺れ動く気持ちにその都度寄り添いながら方向性を決め、本人と家族が心残りのないよう支援している。	入居時に事業所の方針を説明している。状態の変化に応じて事業所の出来ることを説明しながら何度も話し合い、意向の確認をして方針を共有している。看取り期は医師・ケアマネから家族に説明があり、家族も一緒に過ごせるようにして、チームで終末期ケアに取り組んでいる。毎年、看取りの研修を実施している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年事業所内研修で緊急時や事故発生時の対応について学ぶ機会を設けている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災・地震を想定した避難訓練を実施している。実際に利用者と共に消火活動訓練を行っている。自衛消防組織編成表を作ったり避難物資の確認を適宜行っている。洪水時の避難計画書は常時確認できるように備えてある。	防災についての社内研修を行い、火災・地震・洪水時の対応や水・食糧など備蓄品の確認をしている。地域の人に声をかけ、利用者も参加して年2回避難訓練を実施しているが、夜間想定訓練の確認ができなかった。	12月中に夜間想定訓練を行うとのことですので、確実に実施され、毎年、定期的に夜間想定訓練を実施することが望まれる。

グループホームジョイ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人を尊重できる声掛けや対応を行い、尊厳やプライバシーが確保できるように努めている。不適切な支援があった場合はスタッフ全体の問題として話し合いができるように努めている。	一人ひとりを尊重した対応に心がけている。親しさのあまり「ちゃん」付けで呼ぶことに注意している。居室・トイレ・浴室への出入りは、プライバシーに配慮し、利用者が居室を間違えないようにも気を付けている。掲示などに写真を使うことの同意をもらっている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で思いをくみ取れるよう信頼関係を構築している。意向や希望を自己決定し自己実現できるように支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで日常生活が過ごせるように支援している。リビングやキッチン、自室を自由に行き来し本人が過ごしたい場所で過ごせる環境を整えている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒にメニューを考えたり、ジャガイモの皮をむいたり、味見をしたり、「食事」を楽しむことができる。食後の食器拭きやお盆拭きを利用者とスタッフで一緒に行っている。利用者同士で協力し合い役割に参加することもある。	利用者と一緒に冷蔵庫の食材を見て献立を考え、調理をしている。苦手なものがあれば代替品を作っている。下ごしらえ・味見・台拭きなど出来る事は一緒に行っている。外食やテイクアウトをしたり、手作りのケーキを作ったりして食事を楽しんでいる。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下の状態によりとろみを使用したり、ミキサー食や全粥の提供など利用者一人一人に合わせた食事の提供を行っている。水分量の少ない利用者には食事時間だけでなく喉の乾くタイミングを見ながら声をかけている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。希望者は週一回歯科往診を行い利用者に合った歯科物品を選択したりケアについて助言や指導を受けている。	毎食後出来る人は自分で行っているが、磨き残しがないかの確認をするなど、利用者の口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアの支援をしている。訪問歯科診療時に歯科医師や歯科衛生士よりケアの指導や助言を受けている。	

グループホームジョイ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間誘導だけでなく、排泄パターンを情報共有ししぐさや表情を観察しトイレに誘うことで排泄の自立に向けて支援している。必要な方は夜間時ポータブルトイレを使用している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一番風呂が好きな方、食後時間を空けて入浴したい方など希望時間に入浴できるように本人と相談している。湯船に入りたのか、シャワー浴が良いのかも本人の希望に合わせている。入浴後は嗜好品を楽しんでいる利用者がいる。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室では落ち着けない方でもリビングで枕を抱えて休息することで安心できる。また人形と一緒に布団に入ることによって穏やかに安眠できる。一人一人の生活習慣に基づいた支援を行っている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と連携しお薬カレンダーを使用することで誤薬を防いでいる。お薬手帳を全スタッフが見られる場所に置き、いつでも確認できる状態にできている。外国人スタッフでもわかりやすいように名字をひらがなで明記している。	調剤薬局の薬剤師がお薬カレンダーに配薬して説明している。スプーンに薬を乗せ服薬してもらい、飲み残しがないかを確認している。お薬手帳はいつでも見られる所に置いてある。薬の変更時は、様子を記録に残し看護師に報告している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	YouTubeのライブ映像を見ながら日曜礼拝に参加する利用者がいる。自室に仏壇がある利用者は読経をしている。お茶とお花の先生であった利用者は季節行事でお茶をたてることを楽しんでいる。個々に信仰を大切にし、趣味や楽しみを生活の中で見つけることができている。	ライブ映像で日曜礼拝に参加、居室の仏壇前で読経するなどそれぞれの信仰を支援している。家事活動を自分からする人、お花を生けたり、お茶をたてたりするなど得意なことや趣味を活かす人もいる。歌やパズルなど個別にレクリエーションを企画して、楽しみごとの支援をしている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	生活の中で散歩支援だけではなく、1年に2度の外食会や桜の花見、ドライブを行っている。誕生日には家族と一緒に外食をしている利用人もいる。選挙投票に出かけたり、町民運動会への参加も行っている。	天気の良い日は散歩や洗濯物干しをしたり、取り入れたりしている。花見やドライブ、外食にも出かけている。家族の協力で外食や投票に行く人もいる。車いすが乗る車を購入したのでドライブなどが容易になり、外出機会を増やす予定をしている。	

グループホームジョイ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金を預かり、嗜好品や消耗品費を購入し出納帳に付けている。使用した金額を利用者に報告しお金の大切さが理解できるように支援している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	週に1度程度、実姉と電話している利用者がいる。動画や写真を送り合うことや顔を見ながら話すこともしている。SNSを活用しながら大切な人との関係性を保つことができる。自室にスマートフォンを持つ利用者もいる。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた行事の飾りつけをしている。また適切に換気を行い、温度計・湿度計を参考に快適な空間で生活できるようにエアコンを使用している。温度の感じ方には個人差があるため共用空間でも個々が気持ちよく生活できるように支援している。	室温や湿度の調節をし、カーテンや天窓の開閉で光を入れ換気をこまめに行って快適に過ごせるようにしている。テラスに洗濯物を干し、廊下やリビングに行事の写真、みんなで作成した季節の貼り絵、利用者が活けた生花を飾っている。テレビや新聞を見て自由に居心地良く過ごせられるようにしている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置を工夫し関係調整を行い、活動・談話・役割が楽しめるように支援している。気の合った利用者同士で協力しながら役割に参加したり、卓上で作業をしたりと共用空間でも思い思いに過ごせるように工夫している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していた家具・洋服・物品(人形・写真・アルバム・お守り)を置き、家具の配置も自宅での生活を参考にすることで居心地よく馴染みのある空間にできるように工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日付がわかるように日めくりカレンダーや新聞を利用している。居室内にもカレンダーがありその日の気持ちや1日のスケジュールをメモ書きする利用者がいる。また居室内で利用者が自由に安全に移動できる動線づくりも行っている。		